

民生常任委員会記録

日時 令和8年4月10日(金)

場所 第二委員会室

午前 10時51分 開会

○後藤 啓委員長 それではただいまから民生常任委員会を開会いたします。

本日は全員出席であります。直ちに本日の会議を開きます。

最初に今回の委員会の趣旨についてご説明いたします。本日の会議では、6月定例議会まで次期政策提言のテーマを決定するため、本委員会の所管事項の中から取り組むべきテーマ候補を3つあるいは4つに絞り込みたいと思います。次回最終決定しますので、今回は1つの分野に限らず、広い視点で意見を出し合うのが目的でございます。

議論に入る前に、前回の委員会で皆様からいただいたご意見を振り返ります。

松本国博委員からは、「フロントヤード改革について」、高橋千代夫委員からは「幼児保育について」、後藤仁委員からは「結婚問題について」、ガンバリーニ杏子委員からは、「スマート窓口の拡大について」、佐藤猛委員と私からは「前回政策提言でテーマとなった『幼児教育・保育のあり方について』の深掘り」が挙げられましたが、本日はこれらの意見と事前配付した資料をもとに、さらに踏み込んだ協議を行いたいと思います。

委員の皆様には事前に連絡しておりますのでそれぞれテーマ案を考えてきてくださっているとありますが、前回テーマを出された方は今回出さなくてもいいですし、別のテーマということがあるとお聞かせ願いたいと思います。

それでは、お1人ずつ意見をお願いしたいと思いますけれども、まず、ガンバリーニ杏子委員。

○ガンバリーニ杏子委員 前回私スマート窓口の拡大等をテーマで挙げさせていただいていたんですけれども、それはちょっと後ろに下げる形で。やっぱりちょっと他の委員の方の意見に乗っかる形になってしまうんですけど、幼児教育、保育のあり方の深化はやはりこの少子化が進む中で、幼児教育を利用する側の親の立場からとしても重大なポイントだなと思うのでそれをテーマとしてさせていただきたいのと、あとはこの資料の後半の課題①から、AIが作ったんですよね。これの課題②のジェンダー平等と家事シェアの遅れも今後大きなテーマとして考える上ではいいなと思うんですけれども、家事シェアの遅れはなくてもいいのかなと。全般的にジェンダーに関して、ジェンダー平等に関してっていう形でもいいのかなと思っている次第です。以上です。

○後藤 啓委員長 それでは松本国博委員。

○松本国博委員 フロントヤードを言ったつもりですが、とりわけ別のテーマでも構わないです。

○後藤 啓委員長 そうですか。

○松本国博委員 こだわってないです。

○後藤 啓委員長 わかりました。

○後藤 啓委員長 佐藤猛委員。

○佐藤 猛委員 前回申し上げたとおりでやっぱり振り返りが大事だと思いますので、その

ところをまずしっかり総括しながら次に進まない、前も申し上げたと記憶していますが、メンバー変わっても委員会の意味役割というのは変わらないし変わっちゃいけないと思っておりますので、いわゆるメンバー変わって新しい発想とか、それはもちろん大事なんですけど、ただ、提言したものは委員会で1つの結論を得るといえるのか、そういうことを踏まえて次に進むべきだとは考えています。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。高橋千代夫委員。特になければいいです。

市村浩一委員。

○市村浩一委員 前回高橋委員からありましたように、幼児保育、それからまた一番下の少子化の中での幼児教育・保育のあり方ということで同じで。今この360人しか子どもが生まれてないわけなんで当然保育園、これから幼稚園の運営というのは厳しさを増すばかりだというふうに思いますので、ぜひその辺のやっぱり体制と、そしてその体制における中での幼児教育のあり方というようなものはやっぱりこれからどんどん大切になってくるんだというふうに思います。保育園はまず行政で運営してるわけでありましてけれども、民間の幼稚園なんか本当に淘汰されていくような形になろうかと思っておりますので、ぜひこの前の高橋委員の幼児保育また、先ほどの少子化の中での幼児教育、ミックスしたような形であればいいのかなというふうに思います。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。後藤仁委員。

○後藤 仁委員 市村委員と同じ考えでございます。先日の高橋委員の話は、川南地区の話が中心でした。でも今、川南で保育園の統合については、なかなか、最終的には6園か、浜中だとか、宮野浦だとか若宮だとか、新堀、黒森、十坂、十坂は入ってないか、その6園の合併が今動いてるんですね、実際。そのやつを見てますと、これはあくまでも私個人の考えだけれども、今市村委員からあったとおり、この2年間300人台しか生まれてない。その前には400、その前が500という。この4年間の劇的な少子化というものを、どのぐらいこれから幼稚園、保育園の運営なり、施設のあり方まで、大変口幅ったい言い方しますと、理事の皆さんが考えているのかなと。ここは川南云々じゃなくて酒田市全体として、大きく言えば、少子化の中での幼児教育・保育のあり方というものを、今具体的なものが物事が動いてますので、その中で我々議員として早急に提言、我々はこう考えるよというものを出すいい時期ではないかなというふうに思います。

○後藤 啓委員長 佐藤弘委員。

○佐藤 弘委員 そもそも少子化の中で、幼児教育、すごく大事だと思います。でも、その幼児教育の前にあるのが、結婚問題であるのかなと。結婚して子どもが産まれないことで、幼児教育に問題があるんであって、結婚が増えれば、幼児が増えればその問題もやや解決に向かうのではないかというふうに思います。ですから、幼児教育と結婚どっちしようかなと思ったんですけども、下のあの表を見ても、2月末までに生まれた子どもが43人なんです。そうするとこのままでいくと今年は200人台になるんじゃないかという気がする。ですからそれを思うと、これからの幼児教育をどうするかも大事ですけども、可能な限り子どもを増やすという観点から言えば、結婚問題かなというふうに思います。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。佐藤猛委員。

○佐藤猛委員 そのことは全く変わらないんですけども、いわゆる多分ガンバリーニ委員以外の人たちは皆さんおわかりのように、去年7月にこども家庭庁から講師呼んで、いわゆる

保育園・幼稚園、子育て支援についての勉強会をやりましたよね、私議長のときやって。そのときに全保育園の理事長、幼稚園の理事長先生の皆さん来ていただいて意見交換したわけです。今いろんな委員から出ているように、本当切羽詰まった話なんですね、子どもさんいないので。運営ができない。同時に後藤仁委員おっしゃったように、ある意味極めてセンシティブな話で、経営に関わる話なものですから、そのところをどうやって議会として後押しするか、このところは本当に慎重にやっていかなきゃなんない。かといって時間はあまりない。

よく比べられるのが病院統合なんですよ。病院統合のときは言わずもがなですけどやっぱり皆さんおわかりになるように栗谷義樹さんという強烈なリーダーシップを持った方がいたし、厚労省、文科省、総務省も含めて、そういう方向性にありました。なので、県もそういうふうな危機感を持ってましたので、進むことができたと思うんですね。まあこれでよしとしてない、もっと先に行かなきゃならないわけですけど。だからそういう幼児教育の一つの大きな枠組みをつくるということから、例えばそれをテーマとするのであれば、そういうところもしっかり研究をこの委員会で。当事者だけにやらせておくのも大変な話なので、やはり国のそういった施策に乗ってったりとかですね、というところをしっかりと捕まえていかないといけないんだろうなということを思います。私は振り返りという言い方をしたのはそういうことなので、ちょっと補足の意味で申し上げます。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。幼児教育についてのテーマとした場合、前回の提言した内容の検証の中で進めていくというようなことと、どういうふうに住み分けするかというような話で、皆様のご意見いただければと思うんですけども。まだ検証のやつはできてないんですけども。

○高橋千代夫委員 幼児保育そのものをよく考えると、このままだとやっぱり法人ってもたないと思うんですよ。一時的に今までの歴史を振り返ると、実は酒田市っていうのは、法人立の保育に切り替えるということになって、本当はみんなそっちの方向に行こうとしたんですけども、合併によって、市立が残ったと。旧町のものもあるんで。それが残ったということで、あとそこでストップになったわけです。ところが今の少子化によって法人立が非常に経営難になっているのが、目に見えてわかると。だからまずそこをどうするかということをはっきりと方向性を定めていかないと、変な話になるんだろうと思うんです。

例えば当然後藤啓委員長がよくわかるとおり、八幡でも去年はほぼ子どもが産まれていないと。あれだけのまちでさえゼロなんですよ。

そういうような事態で、本当に法人立の保育園がもつかと言ったらもたないでしょ。まあ八幡は法人立でないからいいのかもしれませんが、一時的にこの水害のときも松山と合併するとか何とかって話もあったわけなので。やっぱりそういうことを、どっちの方向に舵を切るかっていうことをはっきりと決めていかなければならない時期に来てると思うんですよ。ただ財務の蓄え、どのくらいあるかっていうのは各法人で違うわけなので、そこを直すっていうのは非常に難しい話があるんですけども、でもこれやらないと、もうとんでもないことになるわけ。実際、国では少人数の保育園の維持の仕方っていうのも、去年の冬にかけてですか、出してるんですけども、これもきっちりまだ我々知らないわけですよ。でもそれっていうのは一時しのぎの話であって、やっぱり将来的なことを見るとどうしても全体のどのくらいにしていくかっていうのは方向性を定めないと本当に大変なことになっていく

だろうし、特に親の方から見ると、自分の働き場所から考える保育園っていうことになっていくんだろうと思うんで、ひょっとすると、酒田市飛び越えて他に逃げちゃうっていう可能性も、もう既にそれも始まってますけども。そういうのをやっぱりきっちり検証して、どういうふうな方向するかっていうのは本当に考えなければいけない。早急に考えなければいけない時期に来ていると思うんです。だから問題としてはすごい大きな問題ですけども、果敢に取り組まないと大変なことになると思います。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。佐藤猛委員。

○佐藤 猛委員 すいません、繰り返しになるんですけど。やはり今、高橋委員おっしゃったように、やっぱり個々の経営状態、また経営方針、また理念、こういうことがあるわけですね。それを全部包含できるようなリーダーというか方針といいますか、そういう人がいないとまず難しいと思うんです。それからそれを裏付ける財源。市単じゃ無理なので、国やそういうところのそういったメニューこれからどういうものが出てくるか。と言ったところもやっぱり当事者が一番多分調べてると思いますよ。だから、委員会として方向性を出すぐらいなんです、おそらくできたとしても。後はそれぞれの経営判断ですから。

だから、総論賛成各論反対みたいなのに陥らないようにするためにも、議会としてこういう方向性を出すのは大いに結構なんです。ただそれだけのリーダーシップを持った人がいるかどうか。またそれを支えるだけの財源的な、例えば制度的な、また法的な、そういった整備が進んでいるかどうか。これ全国の問題ですからね。酒田だけではなくて。そういったところを網羅した議論をしていかないと、実質的な話にはなっていないと思います。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。後藤仁委員。

○後藤 仁委員 今お二方がおっしゃいましたけども、確か資料で、今年の4月1日から各幼稚園、保育園の定数見直しかけてます。例えば松山保育園は120から60、八幡保育園は140から70で細かく定数を実際に削減してます。それは今の対処療法的な話で、大きく酒田の幼稚園保育園、それをどうするどういう形でやるべきかというものは、実は我々も、さっき言ったとおり、民間企業なり、法人保育園がやってるだけですから、実はわかってないですよ。それが先ほど言いましたとおりこの4年間の300、400、500かな。その集団がもう幼稚園と保育園のメインのサービス対象園児になっていくという、この現実の並行的に動いていくのが今の酒田なんです。

だからそれを議会として個々の経営には口は出せないと思いますけれども、あるべき姿みたいなものをするというのは、私は非常にそれに対する先ほどの佐藤猛委員からもあったとおり、予算というか、そういうものも我々つけなきゃ駄目でしょうと、もう民間だけに任せるとは駄目でしょうというあたりまでの、腹を据えた幼児保育というか教育に向けて、いつていただきたいなど。2歳と5歳の園児を持つ爺としては思うところがございますけども。

○後藤 啓委員長 ガンバリーニ杏子委員。

○ガンバリーニ杏子委員 実際魔の2歳児を持つ母として当事者ではあるんですけども、やはり2024年生まれなので、さっき後藤委員がおっしゃった300台の年の子なんです。私学区としては浜田小学校で、今ちょっと私より年上の方から聞くと、その人が小学生の頃、もう校舎に入りきれなくてプレハブ建てたみたいなのを言う方もいるぐらいすご多かったんですけど、今年の新入生がちょっと増えて20人弱ぐらいとか。うちの子が小学校に入るとき、何人になるんだろう、果たして浜田小学校残ってるかなっていう不安を感じるぐらいの

人数の少なさなもので、本当に確かに他の議員さんおっしゃるとおり各法人の経営に口は出せないと思うんですけども、市として今後この子どもがこれだけ減って、当事者としてもやっぱり不安に思うわけです。いろいろ。市の政策とかを見られる立場であっても。

今後うちの子が小学校、中学校、高校になるとき、もっと近く6歳になるまでにこの酒田市の教育事情どうなってるのかっていうのはすごく不安でもあるので、そこを委員会としてどうするかっていうのを提言として出すのはすごくいいことだとは思いますが。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。

今話題になってる園の統合等については前回の提言の中でも一応触れている内容なんですけれども。あと、検証の機会といいますか、あれはいつ、途中経過といいますか、いつ頃とかってあるんですかね。

○事務局 検証の方のスケジュールまだはつきりとお示ししておらず申し訳ございません。昨年度と同様のスケジュールで行きますと、6月定例議会中何かしら一つアクションがあるのかなと思ってございますので、正式に決まりましたら速やかにご連絡したいと思います。以上です。

○後藤 啓委員長 その検証を聞いてからとなるとちょっとテーマが遅れてしまうので。ですので、今の幼児保育の件についてまずメインテーマとして、進めていくのがいいのかなと思うんですけども、皆様のご意見は。結婚問題は含めても。前提条件となるわけですので。はい、佐藤猛委員。

○佐藤 猛委員 やっぱり去年7月正直、こども家庭庁の担当課長が来るっていうので、ものすごい反響大きかったですよ。最初声かけするときに、まさかあんなに来ると思わなかったです。全理事長、全先生もみんな来たわけですよ。中央省庁の人たちも課長も実際いろんな施策を打ってるんだけど生の話、なかなか聞けなかったのだからとすごくいい勉強になったみたいな話になってるわけです。だから、非常にこの問題は本当時間がない。皆さん共通認識だと思いますので。だからもうおっしゃるように本当に同時並行でも。そういうことであればね。それも検証を踏まえつつありなのかなとは思いますがけれどもね。ただ経営に立ち入れられないので、そのところの難しさはありますよね。

○後藤 啓委員長 後藤仁委員。

○後藤 仁委員 だから、今までのテーマみたいに結論を求めるんじゃなくて、とにかく今酒田市がこういう状況になっちゃってるよと。それを認識しながら、今高橋千代夫委員が言ってくれたけども、並行的に社会の動きと、だって川南の方は動いていくわけだから。その中でも我々としてはどうなのという。逆に並行的でこっちがあるからどうじゃなくて、大きな流れとして、今の、さっきから何度も言うけどもこの4年の子どもたちで、令和8年もそのくらいの300台、下手したら200台になるかもしれない、そういう時代に入ってるよという認識を酒田市民から理解していただくというのも、この委員会からテーマとして発信できれば、それだけでもいいんじゃないかね。

○後藤 啓委員長 はい、市村浩一委員。

○市村浩一委員 ガンバリーニ杏子委員からもありましたけど、本当浜田小学校、琢成小学校なんてこれから存続していくのかっていう。旧市街地、臨港線と新井田川の内側って、コンビニ3軒しかないんですよ。コンビニ出店するのは1軒2,000人から3,000人ぐらいまでの間ですから、多分7,8,000人しかその中にいないんですよ。人口的には。酒田大火前は2万

5000人いた。今多分8,000人ぐらいしかいないんですよ。そういうことも環境として、やっぱりそういうこともあることも含めながらやっぱりこういったところはちょっと考えていかないと、幼稚保育園のそういう取り巻く環境ってすごく大きくなってきているので、そういう話もしていかなければならないと思います。

○後藤 啓委員長 佐藤猛委員。

○佐藤 猛委員 ある意味、共通認識だなというふうに今やり取りしてて、非常に今感じているところなんです。去年7月あれだけのイベント、ある意味ビックイベントなわけですよ、中央省庁から担当課長来るなんてないわけですから。ビッグイベントやったわけですけど、実際に市として担当課の人たち、担当課だけでどうこうなる話ではないレベルなんです。今市村委員からもあったように。所管は確かにあるんでしょうけれど、やっぱりトータル的にこの問題に、関わっていかなきゃならないという意味からすれば、所管の委員会がこれに取り組んでいるということはそれはインパクトある話。当局から見ればですよ。所管課だけではなくて所管部だけではなくて。というふうなやっぱりインパクトのあるテーマだと思うし、この場で扱うってことはそういうふうになり得る、そういうふうな意味合いも出てくると思います。

○後藤 啓委員長 市村浩一委員。

○市村浩一委員 なので、前回の委員会が出た政策提言、これ検証しなきゃいけないんですけども、政策提言の中身がどういう話だったかまずあれですけども、今回このようなものを深く、もう一回深掘りしたようなテーマになりますので、そこはそこでこういう話をしていったらまた検証のときにはやっぱりそのさらに検証を深めるというような話でも私は結構だというふうに思うんですけどね。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 ずいぶん前から言っても、はっきり言えば所管ではなくて、一番のトップが全然動いてないということなんです。実は。ここまで来て。もう数字でわかるぐらいになっているのに、全然動いてないと。これはやっぱり我々が尻叩かないとどうしようもないと思うんです。将来像をこっちから提言していかないと、本気度という意味ではすごく薄いので、そこはきっちりやっていただくためにも我々は動かなければならないんだらうと思います。

○後藤 啓委員長 暫時休憩いたします。

午前 11 時 20 分 休憩

午前 11 時 24 分 再開

○後藤 啓委員長 再開いたします。今事務局からありましたけれども、皆さん今回ほぼ一致した見解でのご意見だったと思うんですけども、前回の政策提言と重複する部分もあり、お持ち帰りということでしたので、一旦事務局で検討すると。

後藤仁委員。

○後藤 仁委員 持ち帰って検討してください。ただし、令和6年でしょ、令和7年か、7年だけでも、我々の感覚から言うと、まず369人か、367、ここら辺の数字が、6年度7年度の数字がここまで2年続けてなるかという認識ありませんでした。500、400人ぐらいのイメー

ジしか。漠然と思ってました。あともう一つ高橋千代夫委員からもありましたとおり、川南で今保育園の動きがございます。もう一つはやはりさっき話しましたとおり、市立保育園も民間の保育園も、この少子化対策において、定数を今年度削減したという。スピード感が、前回私その民生の委員の1人ですので、これはあくまでも私の感覚だけでも、提言したとき、この保育園だとか幼稚園だとか少子化だとか、身を持って今のような緊迫感はありませんでした。その中で漠然としたっていうか、議論した中で提言させていただきましたけれども、今は令和8年度どうなるのかねと、そのくらいの危機感すら覚える中で、そして保育園・幼稚園がどうすればいいのかと。定数削減だけで毎日ちゃんといけるのかという、そういうふうな現実の危機感を議員として持っています。以上です。

○後藤 啓委員長 市村浩一委員。

○市村浩一委員 今事務局からもあったんですけども、私も議会改革推進特別委員会委員長として、テーマを決めてくださいよと今皆さん、委員会にお示ししておりますが、今後どうやって昨年のを検証しようかということ、どうやったらいいのかというのは手法さえもまだ決まってないので。その辺また、今事務局が言いますように、今回の課題と同じように形の中で少しちょっと話し合いたいなというふうに思ってます。検証の仕方をどうやってやるかってのはまだ決まってませんので。これからやり方があるんだというふうに思いますので。

○後藤 啓委員長 他に。松本国博委員。

○松本国博委員 持ち帰るどうのこうのはおまかせしますけども、何か私聞いてて二つ路線がある感じがして。1つはその保育所、施設をどうするか、統廃合だったりんだりっていう部分と、あと何か産まれなくて困るよねっていうなど2路線ある感じがします。それを1つにして持っていくのか、それともそれは別物なのか、一緒なのかという部分、2つの話がある感じがします。私前回関わってないんですけど思うのは、広すぎると駄目だよっていう。あんまりでかいとぼやけてて、全てのことを網羅しようとしているので、これ大変だったろうなっていう。出せば出したで、もう争点がでかいので、いただいた方も何からやればいいのかっていうのはあるので。ぜひ今出ているのは2つぐらいなのでいいかもしれませんけども、少しちょっとどっちだなっていう。もう根本的にずっと人がいないのかなっていうこともあるんですけど。もう一つに民間の入ってる部分で酒田市保育の部分もある、どうしていくのかすごい微妙な部分があるので、そこら辺ちょっとあるのかなと私。二つあるということで、そこだけご意見。

○後藤 啓委員長 佐藤猛委員。

○佐藤 猛委員 私も持ち帰るのは、OKだと思います。いろんな話ありますけど、確かに民生は非常に広いので、今そこに書かれた話がそこにフォーカスしていったような感じがして私もそれにずぼずぼっと入ってしまっておりますけれど。確かに重要なテーマでありますので、そこは大事なんですけど、ずっと言ってるように極めて経営に関わる話なので、やっぱりセンシティブな話だよと。そのところを委員会としてどこまで踏み込めるのかなっていうところ。さっき病院統合の話をしましたけれど、どうもそれと同じような感覚でやろうとしてもこれは無理なので。そこは理解した上で、この問題をやるとすればですけど、やっていかなきゃならない、かなり大変な問題になります。もう財務指標までみんなわからないとやれない話なので、口で言うのは簡単なんですけど、個人の経営に関わる話ですからね。こ

れ大変な話だと思います。そういう意味で、私はもう1回仕切り直すのもありだと思います。以上です。

○後藤 啓委員長 他に。では一応先ほどの事務局の意見ですので、一旦前回と同じような内容でいくのかどうかっていうのを、そこら辺は再度検討していただきたいと思います。あと他に出ていた意見については特段あれですか。今の幼児教育関係で進めていく方向で。いいですか。わかりました。

それでは活発な議論ありがとうございました。まず議員間討議の結果、大きなテーマとして、幼児教育についてということで挙げたわけですけども、その方向性ということで事務局からも再度検討していただくということになりましたので、その検討結果も含めまして、次回、再確認させていただきたいと思います。

これからの流れですけども、テーマが決まれば深掘りするための意見交換ということで、前回みたいな関係団体とかと意見交換をしないといけないと思いますけども、その前にまず結果を聞いてからということをお願いしたいと思います。これから5月26日に6月定例会議会前の協議会が予定されています。その日に再度委員会を開くといいますか、その前に5月26日以前に今の結果を聞く機会があればと思うんですけども、日程的に大丈夫でしょうかね。もしかしたらその前に皆さんからお集まりいただくことになるかと思いますが、よろしくをお願いしたいと思います。

これをもちまして、民生常任委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。

午前 11 時 33 分 閉 会